

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況	…p. 1
①学生確保の見通し	…p. 1
ア. 定員充足の見込み	…p. 1
イ. 定員充足の根拠となる客観的データの概要	…p. 2
②学生確保に向けた具体的な取り組み状況	…p. 2
(2) 人材需要の動向等社会の養成	…p. 3
①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	…p. 3
②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な証拠	…p. 3

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

①学生確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

1) スポーツ教育学科

平成 21 年 4 月に定員 160 名として開設したスポーツ教育学科では開設以来、毎年定員を満たしている。過去 6 年間ににおける志願者数は、最大で 338 名、最少で 262 名、平均は 302.5 名である。入学者数は最大で 221 名、最少で 199 名、平均は 210.0 名である【資料 1】。さらにスポーツ教育学科の過去 6 年間ににおける入学者数を定員 180 名に変更したと仮定した時の定員超過率を求めると、最大で 122.8%、最少で 110.6%、平均は 116.7%となる【資料 2】。以上のことから、今回の入学定員を 160 名から 180 名に増加しても、定員を安定的に充足する見込みがある。

2) 健康福祉学科

平成 26 年 4 月に定員 60 名として開設した健康福祉学科の過去 6 年間ににおける志願者数は、最大で 59 名、最少で 40 名、平均は 49.2 名である。入学者数は最大で 42 名、最少で 28 名、平均は 36.7 名である【資料 3】。さらに健康福祉学科の過去 6 年間ににおける入学者数を定員 40 名に変更したと仮定した時の定員超過率を求めると、最大で 105.0%、最少で 70.0%、平均は 91.7%となり、定員確保に近づけることができる【資料 4】。これに加え、新たに「スポーツ健康コース」、「介護福祉コース」、「社会福祉コース」の 3 コース制に変更して、スポーツ志向の高い志願者、入学者の確保を目指す。スポーツ教育学科において近年、志願者が増加し、不合格者が出ていることから【資料 1】、健康福祉学科でスポーツ志向の高い学生の確保を目指す。以上のことから、定員 40 名を安定的に充足する見込みがある。

※定員率が 0.7 倍未満の学科について（定員未充足の原因分析）

3) ライフデザイン学科

短期大学部ライフデザイン学科は平成 24 年度に前身の人間総合学科から学科の名称変更をして以来、入学定員を充足できていない。原因としては 18 歳人口の減少や、社会情勢の変化により、短期大学ではなく 4 年制大学を志望する受験生が多くなったことが考えられる。そのため、学生確保の対策として従来の 2 コース（キャリアデザインコース、ファッション舞台アートコース）から、より学科の中身が分かるように 3 コース（キャリアデザインコース、ファッションコース、舞台芸術コース）とした。また、学生が自らの将来に合わせてユニットを自由に組み合わせて履修できるユニット履修制を取り入れている。教育の目的を科目群ユニットに反映させ、それぞれのコースの専門性を意識しながら、ユニットの組み合わせや時間割構成を検討し、教育の一層の充実を図り、就職及び就職後に反映させる人材養成を目的に、資格取得をより積極的に進め、定員確保に努めている。

4) こども学科

短期大学部こども学科における直近 5 年間の合格者数、入学者数は令和 2 年度までは減少傾向にあり、

令和元年度および令和2年度の定員充足率は0.7倍を下回る状況となっている。原因としては18歳人口の減少や、社会情勢の変化により、短期大学ではなく4年制大学を志望する受験生が多くなったことが考えられる。近隣の状況として、札幌圏内の保育者養成短期大学5校の過去2年間の入学定員の合計は令和元年度が570名、令和2年度が530名となっており、入学定員を減員した短期大学がある。入学者数の合計は令和元年度が398名、令和2年度が361名、定員充足率は令和元年度が0.69倍、令和2年度が0.68倍となっており、18歳人口の減少に加え、保育者を養成する短期大学への進学率の減少傾向がうかがえる。これらのことから、現行入学定員の140名を、令和4年度から110名へ変更し、定員確保に努める。

イ. 定員充足の根拠となる客観的データの概要

1) スポーツ教育学科

北海道内におけるスポーツ系のニーズを確認するために、北海道内私立大学の過去3年間の定員超過率を算出した【資料5】。全体でみるといずれの年度においても定員超過率が100%を超えており、大学別にみても概ね定員を充足している状況にある。これらの結果から、北海道内にはスポーツ志向の高い高校生が多数存在するとみなす。その中にあって本学スポーツ教育学科では安定的に入学定員を確保している。この3年間では平成30年度が65名、令和元年度が72名、令和2年度が84名の不合格者（受験者数－合格者数、のべ人数）を出すなど、志願者が増加傾向にある【資料1】。これらの結果から入学定員を160名から180名に増加しても、安定的に充足する見込みがある。

2) 健康福祉学科

北海道内における福祉系のニーズを確認するために、平成30年度から令和2年度までの北海道内私立大学における福祉系学科の入学者数を資料3に示した。合計数をみると平成30年度が413名、令和元年度が407名であったが、令和2年度は515名に増加している。定員超過率は平成30年度が76.5%、令和元年度が75.4%、令和2年度が95.4%となっている。定員超過率には大学間で差がみられるが、定員を満たしていない大学ではほぼ横ばい傾向にある。【資料6】。健康福祉学科の過去6年間における入学者数を定員40名に変更したと仮定した時の定員超過率を求めると、最大で105.0%、最少で70.0%、平均は91.7%となるため、今まで通りの学生数を集めることができれば定員充足に近づけることができる【資料4】。これに加え、健康福祉学科では新たに「スポーツ健康コース」を開設し、スポーツを重点的に学ぶことができる体制を整えた。スポーツ教育学科において近年、不合格者が多数出ているほど多くの志願者が存在することから【資料1】、健康福祉学科への志願者増を見込むことができる。

②学生確保に向けた具体的な取り組み状況

大学全体としては、大学HP（受験生サイト）での情報提供、大学案内やアドミッションガイド、テレビCMなどの広報ツールの活用、高校訪問、進学相談会、年間5回のオープンキャンパスの開催を通じて広報活動を行っている。

1) スポーツ教育学科

スポーツ教育学科では、「スポーツ教育コース」、「スポーツトレーナコース」、「競技スポーツコース」の3コース制により、それぞれ高い専門性の学びを実現している。北海道における保健体育科教員の正規採用者数が北海道内私立大学でトップの実績があること、スポーツトレーナーや運動指導者としての学びが充実しており、資格取得や就職につながっていること、スポーツ競技者が競技力向上を目指すためのトレーニング理論やコーチング理論を学ぶことができることなど、充実した学びや就職実績をパンフレットや高校訪問、HP を活用して社会に発信している。

2) 健康福祉学科

健康と福祉を複合的に学べること、介護予防や子ども食堂など本学独自の取り組みを通じて実践的な学びができること、学生が学科の学びに満足していることをパンフレットやHP を通じて社会に発信している。今回、「スポーツ健康コース」、「介護福祉コース」、「社会福祉コース」の3コース制に変更し、さらに専門的な学びが実現できるようにした。新たに開設するスポーツ健康コースでは、運動指導者や公務員として健康づくりや介護予防、地域づくりなどを行うスポーツの専門家を養成するため、スポーツ志向の高い学生の志願者も見込むことができる。

(2) 人材需要の動向等社会の養成

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

1) スポーツ教育学科

スポーツ教育学科では「スポーツに関する高い専門知識と実践的技術を学び、生涯スポーツ社会の実現に向けて競技スポーツ、学校教育、地域社会で活躍できる人間性豊かな人材の育成」を目的としている。具体的には、保健体育科教員、健康運動指導士、アスレティックトレーナー、競技者を養成する。

2) 健康福祉学科

健康福祉学科では「健康・福祉・介護・スポーツに関する幅広い専門的知識の習得と地域貢献等に主体的に取り組む実践をととして優れた企画力・実践力・連携力の養成をめざし、少子高齢社会における地域づくり、健康づくり、対人援助などを推進するスポーツマインドを持った福祉実践者、福祉マインドを持った健康運動指導者の育成」を目的としている。具体的には、健康運動指導士や公務員、介護福祉士、社会福祉士を養成する。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な証拠

過去3年間の大学に寄せられたすべての求人情報をみると、平成29年度が全体で4,883件、うち道内本社の企業が2,393件(49.0%)、平成30年度が全体で3,962件、うち道内本社の企業が2,174件(54.9%)、令和元年度が全体で3,771件、うち道内本社の企業が2,109件(55.9%)と北海道内本社の企業からの求人が多い【資料7】。

1) スポーツ教育学科

過去3年間の卒業生はいずれも就職率が100%となっている【資料8】。就職先の業種は教員が平均12.7% (10.5～15.3%)、運動指導者関係が平均10.3% (7.5～15.8%)、公務員が平均10.6% (8.8～12.5%)、と、大学での学びや取得した資格を生かした進路について卒業生が多く存在することから、本学科で育成する人材が社会的、地域的な人材需要をふまえている。

2) 健康福祉学科

過去3年間の卒業生はいずれも就職率が100%となっている【資料9】。就職先の業種は福祉職が平均46.6% (38.2～51.6%)、公務員が平均8.2% (2.9～12.9%)、と、大学での学びや取得した資格を生かした進路について卒業生が多く存在する。また大学に寄せられた福祉・医療分野での求人数が1,365件 (28.0%) , 1,381件 (34.9%) , 1,338件 (35.5%) であった【資料7】。以上のことから、本学科で育成する人材が社会的、地域的な人材需要をふまえている。